

2024年12月14日
第161号



国労九州

〒812-0013 福岡市博多
多駅前3丁目9番3号
ニコニコハイブ
1003092-483-1515
発 責 千々岩 隆 彰
編 責 水 流



地域公共交通を考える九州集会!



12月12日博多リファレンス駅東会議室において、地域公共交通を考える九州集会を開催しました。参加者は30人。前段の労働講座では、路線廃止が続く北海道の現状について、北海道エリア本部伊藤委員長から報告を受け、九州集会では、九州交運労働協幹事で私鉄総連九州連合会書記長の福田赴文さんから「持続可能な公共交通をめざして」の問題提起を頂きました。

地域公共交通を考える

人口減少及び高齢化による長期的な利用者の落ち込みに加えコロナ禍もあり地域交通を取り巻く状況は年々悪化している。特にローカル鉄道は、大量輸送機関としての特性が活かされていない。その一方で利用者は、運転免許の返納（昨年40万人）により公共交通がないと生活ができない状況に置かれている。

現状の公共交通が「内部補助」「自助努力」での維持の時代ではない事を共通認識とし、「利用者あるいは利用したい人」の立場で地域住民に保障すべき最低限度以上の公共交通の実現に向けた積極的な政策を国・自治体などに求める事の必要性を訴えました。その中で、徳島県南部の鉄道とバスの共同経営の状況や長野県松本市のエリア一括協定運航事業、広島市のバスの共同運営システムなど、持続可能な公共交通をめざす取り組みが出ている事を紹介しました。

労働組合として、企業責任を明確にし、労働者の生活と雇用確保していく視点を基本とし、同時に当該地域における労使で共通する交通政策課題については、共同行動として積極的に取り組むことが大事ではないかと問題提起をされました。

北海道における路線廃止から学ぶこと!



北海道本部からの報告では、2011年の石勝線火災事故から多くの脱線事故や重大インシデントが続いて発生し、国交省から「事業改善命令」が何度となく出されてきた。線路補修など安全面を後回しにしてきた結果や、北海道の特有費用（除雪費用に年50億円）等から経営状況も厳しくなってきた。会社は「鉄道事業の抜本的な見直し」として当社単独では維持する事ができない線区と輸送密度が200人未満の線区はバス転換とする方針を打ち出した。（2016年）そのため多くの線区でバス転換が実施されてきている。特に夕張市は「攻めの廃線」と称して自治体が積極的に廃線を容認してきた。そのバス転換された夕張支線では、鉄道時代より便利になると宣伝されてきたが、

運賃は倍に上がり時間も伸びるなどして利用者が激減した。9月に運転士不足から夕張市と札幌駅前を結ぶ高速バスが廃止され町から直通で出るバスが無くなり陸の孤島となった。また、何処の事業所もバスの運転士不足は深刻で、北海道バス協会は全道で500人の運転士不足を公表し、人口が集中している札幌市内でも、6路線が廃止の計画となっている。このように安易なバス転換では持続可能な公共交通は維持できないことがわかる。交運労働協に結集する各単産と公共交通全般としての必要性・維持に向けた議論が今後必要であると訴えました。

がん保険にできることを、もっと。

NEW
「生きるを創るがん保険」
WINGS

1 幅広い保障で経済的負担をサポート
治療前・治療中・治療後の外見ケアまで幅広い保障でしっかり支えることができます。

2 がんがもしもあれば「がんがもしも」のときからアフラックのよみがえりがん相談サポートでさまざまな悩みを解決をサポート
「がんがもしも」のときから専門知識を持つ相談員が職員にお応えします。

（*）アフラックのよみがえりがん相談サポートはMatch Healthcare株式会社またはMatch Healthcare株式会社の子会社が提供するサービスであり、アフラックの保険契約による保障ではありません。サービスの詳細は、アフラックライフスタイルホームページ（<https://www.aflac.co.jp/kiyaku/gansoudansupport.html>）をご確認ください。

（募集代理店）アフラックは代理店制度を採用しています。 引渡保険会社 AFグループ 2022-0277-2210030 7111311

アベニール株式会社
〒110-0004 東京都港区新橋5-15-5
交通ビル3階
TEL.03-3437-6810 FAX.03-3437-6822

「生きる」を創る。 Aflac
アフラック
東京第二法人営業部
東京都中央区本町1-1-6-1
丸の内センタービル10階
TEL.03-6385-9829 FAX.03-3218-3885